

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築

|       |                                                                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2025-04-09<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 星野, 靖二<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/0002001536">https://doi.org/10.57529/0002001536</a>                   |

## 「宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築」

プロジェクト責任者 星野 靖二

### 1. プロジェクトの概要

現在の日本文化研究所は、2007年に旧日本文化研究所を一つの有力な母体として研究開発推進機構が設立された際に、同機構下の一機関として改組・設置された。旧日本文化研究所が推進してきた事業の一部を継承することを念頭に置き、設置に際して「国際交流・学術情報発信部門」と「神道・国学研究部門」の二部門を立て、これまで両部門がそれぞれに事業を推進してきた。

例えば、2019年度から2021年度まで実施された「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」事業は主として「国際交流・学術情報発信部門」の担当プロジェクトとして推進され、「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の成果公開とデータベース再構築」事業は主として「神道・国学研究部門」の担当プロジェクトとして推進されてきた。

しかし、日本文化研究所として、両部門をより有機的に連携させ、従来の研究成果を継承しつつ拡充させ、かつそれを十分に活用し、より公益に資する形で公開することなどを目指して、2022年度より新たに両部門合同でプロジェクトを推進することとし、「宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築」事業を立てた。なお、同事業は中期五カ年計画の進捗を念頭に置き、体制の整備などを含めて2022年度より二カ年で進めることとする。

2022年度の本プロジェクトのメンバーは次の通りであった。

〔専任教員〕星野靖二、吉永博彰、川嶋麗華

〔兼任教員〕黒崎浩行、シッケタンツ、エリック、平藤喜久子、遠藤 潤、松本久史、飯倉義之

〔ポスドク研究員〕高田 彩、藤井修平、宮澤安紀、大場あや、武井謙悟

〔研究補助員〕木村悠之介、鳴海あかり、長見菜子

〔客員教授〕井上順孝、櫻井義秀、ナカイ、ケイト、ヘイヴンズ、ノルマン、山中 弘、林 淳

〔共同研究員〕天田顕徳、今井信治、小高絢子、ガイタニデイス、ヤニス、塚田穂高、野口生也、ビュテル、ジャン＝ミシェル、フレーレ、カール、牧野元紀、村上 晶、矢崎早枝子、井関大介、一戸 渉、今井功一、荻原 稔、小田真裕、小平美香、齋藤公太、芹口真結子、原田雄斗、三ッ松誠、丹羽宣子、間芝志保

### 2. 2022年度の成果

#### (1) デジタル・ミュージアムの運営

デジタル・ミュージアムの運営については、新システムへ移行後も、掲載コンテンツの調整・拡充を図っている。

<https://d-museum.kokugakuin.ac.jp>



## (2) Kokugakuin Japan Studiesの刊行

オンライン英文ジャーナルKokugakuin Japan Studiesの第4号を刊行した。テーマを「日本文化の形成・変容・継承」とし、次の3点の論文を英訳して掲載した。

SUZUKI Satoko “The Background to the Formation of Shinto Shrines’ Annual Events: Seasonal Celebration Rites” (\* 鈴木聡子「神社年中行事の形成背景—節日神事を中心に—」『國學院雑誌』122巻10号、2021年10月、1-15頁の英訳)

ITŌ Ryōhei “The Sites of Tales’ Births and Deaths: “Disorienting Deity”-type Bewitching Fox Stories” (\* 伊藤龍平「物語が生まれる場、死ぬ場—「迷ハシ神型」妖狐譚を例として—」『日本文学論究』81冊、2022年3月、5-14頁の英訳)

HATTORI Hiromi “Umbrella Floats Connecting the Dead and Living: The First Bon Events of the Nakiri Hamlet in Mie” (\* 服部比呂美「死者と生者を結ぶ傘鉾—三重県志摩市大王町波切の新盆行事から—」『國學院雑誌』118巻4号、2017年4月、153-170頁の英訳)

内容詳細は、下記URLを参照されたい。

<https://www2.kokugakuin.ac.jp/oardijcc/publications/kjs-04.html>



## (3) 国際研究フォーラムの開催

日本文化研究所全体の催事として、国際研究フォーラム「ミュージアムでみせる宗教文化 Displaying Religious Cultures: A Museum Perspective」を企画し、2022年12月11日に開催した(本誌トピック1参照)。

これに関連して、前日の12月10日に、写真発明200年記念企画ワークショップ第2弾「研

究者のための撮影術3—アウラの行方」を共催した(本誌トピック2参照)。

「ミュージアムでみせる宗教文化」については、2023年度に報告書を刊行する予定である。

## (4) 報告書『日本の宗教文化を撮る』の刊行

2021年度に、日本文化研究所の主催催事として開催した、国際研究フォーラム「日本の宗教文化を撮る」の報告書を刊行した(本誌トピック4参照)。

## (5) 櫻井義秀氏による講演(「宗教文化士の集い」)

2023年2月25日に、宗教文化教育推進センター主催、國學院大學神道文化学部および日本文化研究所の共催による催事として「宗教文化士の集い」を開催し、櫻井義秀氏(北海道大学大学院教授・日本文化研究所客員教授)による講演「宗教リテラシーの低下がカルト問題を拡大する——統一教会問題から考えるべきこと」が行われた(本誌トピック3参照)。

## (6) 研究会の開催

2022年度は、2022年7月7日に公開研究会「電波な声: 復帰前沖縄における怪情報、抵抗、メディア」(本誌トピック5参照)、2023年2月27日に学内研究会「島嶼部の伝統芸能をめぐる諸問題—三宅島にみたこれまでの活動とこれからの展望—」(本誌トピック6参照)、また日本文化研究所研究会を9回開催した(本誌トピック8参照)。

### 3. 2023年度の実施計画

本事業は二カ年計画であり、2023年度が第二年度となる。引き続き日本の宗教文化に関する本学の学術情報に焦点をあわせ、「学術情報の研究・整理・拡充」と「学術情報の国際発信」について、体制を構築して、これらを推進していく。

2023年度の研究計画は以下の通りである。

#### 1 「学術情報の研究・整理・拡充」

##### (1) 学術情報の一覧化・電子化

旧日本文化研究所と21世紀COEプログラムにおいて蓄積されてきた日本の宗教文化に関する学術情報について整理・電子化を進める。本学図書館に所蔵されている近代の神道・国学関連雑誌の調査を進める。優先度の高い重要な資料について、電子化を行う。

##### (2) 学術情報の公開に向けた連絡・調整

著作権の処理を含めて、原著者から公開許可を得て公開するための手続きを進める。そのための連絡・調整作業を行う。本学機関リポジトリへの登録も視野に入れ、そのための調整作業を行う。

##### (3) 研究の推進と宗教文化教育の教材開発への展開

日本の宗教文化に関する研究を進め、既存の学術情報を拡充していく。具体的には、霊魂観・死生観に焦点を合わせ、その複層的な「思想」と「実践」を考察することを課題とし、現地調査などを行い、民俗学・宗教学など多角的な視点からの検討を試みる。公開された学術情報について、より公益に資することを念頭に置いて、宗教文化教育の教材開発へと展開させていく。

#### 2 「学術情報の国際発信」

##### (1) デジタル・ミュージアムとの連携

本学諸機関と連携してデジタル・ミュージ

アムの運営を推進する。また Encyclopedia of Shinto など既にデジタル・ミュージアム上で公開している学術情報を拡充していく。

##### (2) ウェブ上での情報発信

ウェブサイト、SNSなど各種媒体を活用して学術情報の発信を推進していく。Shinto Portalサイトを拡充し、神道についての信頼に足る英語の情報を集約していく。

##### (3) 国内外の研究者・研究機関との交流・連携

日本の宗教文化研究に関わる研究者・機関について情報を集積し、交流・連携を図る。英語圏の研究者と協力して、研究成果を英語化して発表する。

##### (4) 研究成果発信のための催事の開催

定期的に研究会を開催し、本事業の研究成果を広く発信し、また 外部から講師を招いて知見を深め、事業のより円滑な推進につなげる。

加えて、日本文化研究所として継続していく定例事業として、下記を行う。

まず、日本文化研究所の活動報告と研究成果を掲載する『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』を編集・刊行する。

オンライン英文ジャーナル *Kokugakuin Japan Studies* を刊行して、本学の学術成果を英語で発信する。

また、国際研究フォーラムを開催して、宗教文化に関する問題を議論し、日本国外の研究者たちとの研究交流を促進する。2023年度は、ツーリズムと宗教文化の交錯をテーマとして催行する予定である。

関連して、新事業ではウェブサイトやSNSによる学術情報の発信を推進していくが、その際に用いるウェブサイトやSNSは、これまで日本文化研究所が継続的に運用してきたものである。下記にそれらを掲げる。

- ・ 國學院大學公式ウェブサイト  
<https://www.kokugakuin.ac.jp/>
- ・ 日本文化研究所ウェブサイト  
<https://www2.kokugakuin.ac.jp/oardijcc/>
- ・ Shinto Portal  
<https://www2.kokugakuin.ac.jp/e-shinto/>
- ・ 日本文化研究所Facebookページ  
<https://www.facebook.com/oardijcc>
- ・ 日本文化研究所 X（旧Twitter）  
<https://twitter.com/oardijcc>
- ・ 宗教研究関連催事情報  
<https://twitter.com/IjccRsen>